

使差使候先例相見候然ル處、町奉行ニ而、去ル亥年○寛政三年窺之上、右體貫請候捨子病死之節は、元町其町役人共罷越様子見届無之分は、懸り届出、病體於相分は、檢使遣間敷間其旨を存、入念可申段、町々江申渡置候ニ付、一事同様ニ相成候も如何に候間以來、町方へ遣候捨子、捨歳迄之内病死いたし候段申出候ハ、捨子遣方之寺社、又ハ寺社領之もの罷越見届、病死に相違も無之、雙方より届出候ハ、承届檢使ハ不差遣取片付之儀可申付候事、

右之通、寛政八辰年六月六日、周防守宅於内寄合申合相極候事、

脇坂淡路守

四ッ谷北寺町一向宗眞榮寺門内ニ去ル午年當才之男子捨有之、見分之上貫人有之迄、定例之通同寺江尋置候處、此度別紙之通願出候間相糺候處、先例相見不申、右類之義承届候ハ、後年ニ至り、品々弊を生じ可申哉も難計候間、旁出家爲致候儀者難成段申達、願書差戻申候、右之趣以來、共區々ニ不相成様取計可申候、

右享和二戌年十一月十八日、淡路守宅内寄合おゐて申合之事、

〔徳川禁令考後聚二十行刑條例〕文政元寅年御渡

大坂町奉行伺

當時無宿辨吉儀、攝州小島古堤新田藤八申合、小兒を貫養料錢掠取、小兒を捨候一件、

當時無宿辨吉

右之者儀、小兒を貫養料錢掠取捨可申と、最初より相巧藤八申合、卯兵衛當歳之娘たみを、一生不通之相對を以、藤八ニ爲貫受、養料錢分ケ取候上、同人俱々右たみを捨候段、不届ニ付、存命ニ候得バ、死罪可申付ものニ候段、一件之もの江申渡、

此儀松平右京大夫申上候趣ニ而ハ、彼地仕來之儀、金子を添貫候子を捨候もの、引廻し之上、獄